

# 塗料を通じて社会に貢献し、 新しい価値創造に取り組めます。

## 85年間の信頼への感謝と 創業「100年目」を見据えて

当社は、2014年7月に創立85周年を迎えることができました。創業製品のズボイドをはじめとし、建築物や構造物の保護と美装に深く関わる塗料を、これまでさまざまな社会的ニーズにお応えした塗料を開発・提供してまいりました。今日までの事業史を築くことができましたのは、ひとえにお客さまからの信頼という大きな支えを得られたおかげです。あらためて深く感謝申し上げます。

会社創業の原点となったのは、当社初代社長で島津製作所の2代目社長であった島津源蔵氏が考案した亜酸化鉛を生成する「易反応性鉛粉製造法」です。これによってそれまで得られなかった高いクオリティの鉛粉を製造することが可能となりました。

これを塗料開発に応用し、さび止め塗料「ズボイド」として結実させたのが当社二代目社長の根岸信氏です。「ズボイド」は国内だけでなく、欧米各国で特許を取得しました。それは今日へと続く「重防食塗料のリーディングカンパニー」としての当社の事業基盤を形成する礎となり、同時に産業の繁栄と社会への貢献を目指す当社の事業活動を、力強く牽引する原動力となりました。

近年は構造物の長寿命化の実現・地球環境保全への対応・省エネルギー・省資源など、塗料に求められる役割や機能は多様化し、しかもさらに高度なものになりつつあることをしっかり認識して、塗料メーカーとして時代の変化を予測し後れをとることのない製品開発をめざしています。

当社は、これからもこれまでに培った豊富な経験とノウハウ・技術の集積を生かして多様な塗料ニーズに柔軟かつ的確に対応し、次の大きな節目となる「創業100年」へ向けて着実な歩みを重ねてまいります。

## サステナブル社会の構築という 社会的な責務

高度経済成長期を迎えた1960年代、わが国では官民でさまざまな建築物・構造物が新設され、社会の発展を牽引しました。しかし、それから半世紀が過ぎようとしている現在、多くの構造物は経年劣化という問題を抱え、中でもインフラ施設における

老朽化は深刻な問題になりつつあります。このままではサステナブル(持続可能)な社会の実現に向けて大きな懸念が生じかねません。

そこで当社では新設・メンテナンス(維持管理)の両面からサステナブルな社会の構築に貢献できるような製品およびシステムの開発に取り組んでいます。

新設分野では、構造物の長寿命化という要請に応える厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」を開発しました。同商品は、長期間におよぶ防食性と耐久性、さらには外観の保持が可能な製品です。塗り替え周期25年のメンテナンスを前提とした、環境負荷低減と経済性を兼ね備えた高耐久性仕様であります。省工程でもっとも耐候性に優れた塗料であることが高く評価され、2012年5月に開業した東京スカイツリー®の構造体である鉄骨部の塗料として採用されました。その後、塗り替え需要に適する弱溶剤タイプの「VフロンHBクリーンスマイル」を市場に提供し、幅広いニーズに応えられる体制を整えています。

メンテナンス分野では、的確な診断でメンテナンス箇所を正確に把握し、適正な塗料を選択することが大切です。塗膜の劣化状況を正確に把握して塗り替え回数や再塗装の適切な周期判定、残りの寿命も的確に判断できる当社独自の「DNT塗膜診断システム」をベースに最適な塗装仕様・メンテナンス仕様を提案してまいります。

最適な塗装仕様の提案を通じて鋼構造物の安全性の確保、計画的な維持管理を可能とし、同時にムダのないメンテナンス対応によって関連経費の節減も実現します。これらはライフサイクルコスト(LCC)の大幅な低減効果にも結びつき、結果としてサステナブルな社会へ向けた確実な一歩を担うこととなります。

## 塗料メーカーとしての 環境配慮

2015年1月、当社と関西ペイント株式会社の連結子会社である久保孝ペイント株式会社との合併会社「ジャパンパウダー塗料製造株式会社」を設立し、粉体塗料の製造を開始しました。

粉体塗料は塗料中に有機溶剤や水などの溶媒を用いず、塗膜形成成分のみで配合されている粉末状の塗料で、揮発性有機化合物(VOC)を含まないため、大気汚染が生じません。また、

回収・再利用が可能で産業廃棄物として廃棄される量も少ない  
うえ、消防法上は非危険物であるため、溶剤形塗料に比べ安全  
性が高く、人と環境にやさしい次世代の塗料として高い評価を  
得ています。

新合弁会社は塗料製造において、環境保全の今後を見つめた  
新しいビジネスモデルの構築をめざしたものでもあります。

VOCの削減ということに関連して言えば、水性塗料とふっ素  
樹脂塗料の多彩な商品展開があります。「水性塗料」は従来の  
溶剤形塗料の有機溶剤を水に置き換えることにより、VOCを  
大幅に削減することを可能にしました。

また、長期の耐久性を有する「ふっ素樹脂塗料」は、鋼構造物  
の供用期間中における塗り替え回数の減少により、その間に排出  
するVOCも削減します。

環境問題への適切な対応はすべての企業に求められる課題  
であることはいうまでもありません。当社では新合弁会社の  
事業活動だけでなく、環境対応形塗料の開発を通じて、塗料  
メーカーとしての環境保全に向けた取り組みをさらに強力に  
推進してまいります。

## 社会インフラの整備に 塗料メーカーが果たす役割

わが国では、橋梁や大型構造物など重要な社会インフラの  
多くは1960年代に整備され、それから半世紀以上という時間を  
経過して老朽化が進んでいるのが現状です。

こうした現状に対応するため当社は、2014年4月に建築・構造  
物塗料事業部を中心とした「インフラコーティングプロジェクト」  
を新しく立ち上げました。

このプロジェクトは2020年に56年ぶりに開催される東京  
オリンピック(パラリンピックも併催)の関連施設および関東地域  
におけるインフラの維持と補修など、構造物の塗り替え需要が  
本格化しつつある動きに対応したものです。同時に国民にとって  
重要な社会資本であるインフラ施設を、次世代へ確実に継承す  
ることをめざしたのもでもあります。

取り組みの中で当社がキーワードとして設定したのは、これま  
でと同様に環境配慮とLCC低減でした。具体的には溶剤系から  
VOC削減に効果のある水性塗料への転換であり、防錆性と  
耐久性を確保する重防食塗料によるメンテナンスコストの低減  
です。

とくに前者では「DNT水性重防食システム」による下地(ジン  
クリッチペイント)から上塗りまでの全工程においてオール水性  
化を提案することで、より確実なVOC低減をめざしました。なお、  
国内の塗料メーカーで水性ジンクリッチペイントを本格展開  
しているのは当社のみです。

社会インフラの整備とそれに関わる分野で、塗料メーカーが  
果たす役割と責務は、今後さらに大きなものになります。

当社では、柔軟な視点と多様な発想を基本に、製品開発そして  
事業展開に取り組んで、時代と社会のニーズに応えてまいり  
ます。それは創業の原点を生かし、その継承と発展につながる  
ものとするからです。

当社の事業精神にご理解をいただき、今後ともご支援とご指導  
を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

い わ さ と し じ ろ う  
岩浅 寿二郎

